

気づきの助産塾 1 DAY in かごしま

平成 29 年 5 月 14 日 (日)

お産の現場は今、生殖医療も発展し、妊娠、分娩は安心安全な医療にきっちり管理されています。その反面、女性が本来持っている授かる力、産む力、生まれる力を発揮できずに満足のいくお産ができなかったり、本来の女性の力を気づかないまま 不安だらけで自信のない育児につながっています。日本の助産師自身も 他国に比べると まだまだ尊重されず、自立できていなのが現状です。助産院もどんどん減っており、地域に寄り添う助産師も減っています。

少子化、産後うつ、虐待・・・

これらは当事者の問題ではなく、日本の制度やいろいろな問題が絡み合っています。

かつての 日本は産み育ての智慧が女性から女性に伝承されていました。

産婆の時代は 助産師と女性 そして家族が繋がり 子生み子育てを支えてきました。

今は 子育て支援者が 地域にはたくさんいます。

地域 女性 家族 助産師 みんなが繋がり、生み育てを支える事ができるよう考えていきましょう。



主催： 鹿児島中央助産院スターキルトプロジェクト

共催： Umi のいえ

日時： 平成29年5月14日（日）10:00～18:00

会場： 鹿児島中央助産院（鹿児島県助産師会館）2階「多目的ホール」

交通案内：

公共交通機関か、梅ヶ淵観音の駐車場をご利用ください（200円）。

≪地図&路線バス情報≫ <http://k-midwife.or.jp/access.html>

対象： 助産師および周産期に関わるご職業の方

20人限定

参加費： 15,000円

お問合せ・お申込み：「お名前」「参加人数」「連絡先」「交通手段」をお知らせください。

鹿児島中央助産院にメールでお申込みください josan@osan.kagoshima.jp

メールができない場合は、fax 099-210-7561 にお問い合わせいたします

5月14日（日）

10:00～12:00 講演「母と子の感応～寄り添いのある助産が生み出すもの」

齊藤麻紀子

12:00～12:45 ランチタイム

12:45～14:45 講演「変わりゆく出産・持続可能な助産」

菊池栄

15:00～17:00 講演「助産師の自律と女性中心の出産ケア」

ドーリング景子

17:00～18:00 振り返り ディスカッション

●講師 菊池 栄（きくちさかえ）さん

テーマ「変わりゆく出産・持続可能な助産」

時代とともに出産の様相は変化してきました。とりわけ生殖補助医療が台頭してきた今世紀になってからは、それまでは想像もできなかった、出産における生物学的な変化が起こってきています。出産の何が変わり、何が変わっていないのか。変容する出産に助産師はどう寄り添っていくのか。出産の変遷を近代から現代までたどりながら、助産師に今、求められていることは何かを考えていきたいと思えます。

プロフィール

立教大学兼任講師（ジェンダー、セクシュアリティ、リプロダクション）。出産育児環境研究会代表。社会デザイン学博士。クリエイター。

当事者の立場から27年間に渡り、マタニティクラス、マタニティYOGAクラスを主宰し、妊婦や産後の母子を対象に子育て支援を行ってきた。REBORN、babycom、「いいお産の日」立ち上げスタッフ。48歳で大学院に進学し、出産・子育て支援を研究。元法務大臣政策秘書を経て、現在は長野県八ヶ岳山麓在住。

著書／「みんなのお産DVD」「マタニティヨーガBOOK」現代書館、「イブの出産、アダムの誕生」農文協、「うまれるいのち つながるいのち」実業之日本社ほか 共著／「産み育てと助産の歴史」医学書院

●ドーリング景子さん

テーマ「助産師の自律と女性中心の出産ケア」

～ニュージーランドの助産システムから学ぶ助産師の役割～

女性に寄り添いたいのに寄り添えない、女性中心のケアができない、その理由とは何でしょうか。日本の助産師は法的に自律していません。そのために、助産師はその専門性を生かすことができず、女性は受けるべきケアを受けることができません。ニュージーランドの出産ケアシステムと助産師の役割を例に、助産師の自律が出産ケアに与える影響と女性のために助産師はどうあるべきかを考えていきたいと思います。

プロフィール

助産師として病院や助産院、国際救援の場で活動した後、カナダとニュージーランドで三児の母となる。2014年にFacebook『お産と助産』で情報発信を開始。ニュージーランドの出産ケアシステムと自律する助産師に魅せられたことを契機に、日本で母親・助産師とBirth for the Future (BFF) 研究会を立ち上げ、政策・制度的な視点から、日本の出産ケアの再構築や助産師の自律を目指す。現在、ニュージーランドの大学院で、女性と助産師の関係について研究中。

●齋藤麻紀子さん

テーマ 「母と子の感応～寄り添いのある助産が生み出すもの」

女性が母になる体験とは、エベレストにでも登るようなチャレンジかもしれません。心身震える大きな試練です。そのために身体を鍛え、身支度をし、どのルートが安全に達成できるか、心の支えになってガイドしてくれるのが助産師さんです。助産とは母性の発動、これにつきますと思います。それには、助産師のあなたが幸せに働くことが必要です。助産師と母と子はつながっているからです。

この時間は、お話と体感ワークを行います。

プロフィール

NPO 法人 Umi のいえ代表

出産・子育て支援活動／ファシリテーター

母親の立場で子育て支援活動 23 年。

産む人と医療者を結ぶネットワーク「REBORN」スタッフ（1995 年～）

「赤ちゃんとママの集い Tea-Party」主宰（1997 年～2008 年）

どうする日本のお産ディスカッション大会実行委員長（2006 年）

助産院での産前教室で母になる道のりと心得についてのクラスを担当

病院産科スタッフに向け研修会にて、ファシリテーションやアタッチメント・ケアを受ける女性の気持ちについて、ワークショップや講演を行う。

編著：『だから日本に助産婦さんが必要です』 自費出版

著書：『となりのミドワイフ』 さいろ社

これまでたくさんの助産師さんの喜びと苦しみをお聴きしてきました。

助産師の活躍こそが日本に愛をもたらす鍵と信じて、助産師向けの集いを企画しつつ、若手の人生相談にもりつつある今日この頃です。